

受講番号 19085 学校名 伊野南中学校 氏名 田所 郁子

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 1年1組 生徒数 35 名
科目名 1年生 単位数(授業時数) 3 時間 使用教科書名 NEW CROWN

クラスの様子・特徴

学習に対して意欲の面で課題がある生徒が多く、楽しい授業よりもテストで高い点を取りたいと考える傾向が見られる。また、学習規律やお互いを思いやり、協力して学習に取り組もうとする態度にも課題が見られる。

問題の確定

授業規律の確立・意欲的に参加できる授業づくり

予備調査

A 授業の観察	B 生徒による授業評価	C 学力データ
授業に集中できにくく、授業態度や学習意欲にも課題のある生徒が見られる。	5月の段階で授業がよくわかる・分かるが60、授業がとても楽しい・楽しい30。つきたい力は、「テストでよい点を取りたい」が80、「外国人と話せるようになりたい」37、「英語の歌を歌いたい」9%	1学期期末評定10段階で10～7が75%と、上位の生徒も多い。

リサーチ・クエスト

生徒が意欲的に参加できる授業をどうつくっていくか

仮説・実践・検証

仮説1	⇒	実践1	⇒	検証1
TTの授業形態を工夫すれば、学習規律が向上し、意欲的な授業ができるだろう。		授業前にT2との打合せ、役割分担を行う。 ○導入時に英語でT2と会話 ○小テスト、プリントの採点 授業後T2との反省		日々の学校生活では打合せの時間がなく不十分であった。騒がしい生徒への手だて、教科書・ノート・プリント等の準備のできていない生徒への指導を行ってもらった状態であった。
仮説2	⇒	実践2	⇒	検証2
授業の始めに授業内容を黒板に提示することによって、生徒たちの授業への心構えができ、授業に集中できるだろう。		毎時間授業内容を明示した。		授業内容と目的を明確に伝えることによって、以前よりは授業に集中しようとする生徒が増えた。生徒自身が授業内で予定された内容や量を知ることによってお互いに注意し合うことができるようになった。また教師が授業の最後に行う授業評価の規準ははっきりし、一方的な態度の指導になることが少なくなり、生徒との関係が改善した。
仮説3	⇒	実践3	⇒	検証3
小グループを使えば授業への集中・相互援助を図れるだろう。		「学びの共同体」として4人の学習班を使って主に「読み」の活動、プリントの取り組みを行った。班で読みのテストをし、そのための練習の時間を確保した。また、相互に評価させた。		4人班にすることで班内のコミュニケーションがとりやすくなり読みに集中した活動がスムーズにできた。また、お互いに協力しようとする動きも見えた。

研究の成果

授業前に授業内容を明示すること、小グループを読みなどで活用することは授業に集中させることに効果的であった。特に、人間関係がうまくつけない生徒たちに、達成しやすい目標や課題を与えて取り組ませることは、集団で活動することの喜びや相互援助の心を育ませることができたのではないかと考える。

今後の授業改善の課題

日々の学校の実態では、T2との打合せの時間がなかなかとれず、効果的なTTの授業体制がとれなかった。今後時間の調整をどう行うか。また、小グループ活動も、授業の中でいつもそういう形ではできないので、他の方法も考えていかなければならない。

リサーチについての問合せ先:

職場電話

892-3615